

様式A 政治経済（大田）

科目にかかわる情報				
科目の 基本 情報	授業科目 (欧文)	政治経済 Politics and Economy		単位 2
	一般・専門の別・ 学習の分野	一般・人文・社会	授業形態・学期	講義・通年
	対象学生	2年全学科	必修・選択必修・ 選択の別	必修
教員にか かわる情 報	担当教員・所属	大田 肇・一般科目（文）		
	研究室等の連絡先	研究室：管理・一般科目棟3階（内線：8195） E-mail：oota@tsuyama-ct.ac.jp		
科目の 学習・教 育内容に かかわる 情報	基礎となる学問分野	法学／政治学／経済学	学習・教育目標	(B)
	授業の概要	経済の基本原理および民主主義社会のそれを理解する。また、現在の日本社会は戦後60年を過ぎ、戦後の日本社会を支えてきた基本的な仕組みが大きく変わろうとしている時期である。このような時期だからこそ、それら戦後の仕組みの中で、投げ捨てるべきものと守り発展させていくべきものとを峻別するセンスを養っていく。		
	学習目的	経済に関する基礎用語を理解する。日本経済の動向を自分なりに把握していくきっかけをつかむ。民主主義の価値と課題を、論理的に理解する。		
	到達目標	1. 経済の基本原理を理解する。 2. 転換期にある現代日本経済の現状を把握する。 3. 民主主義社会の基本原理を理解する。 4. これまた転換期にある現代日本社会の動向を、国際関係も視野に入れながら、把握する。		
履修に かかわる 情報 と履修 のアド バイス	履修上の注意	2学年課程修了のためにはこの科目の履修が必須である。		
	技術者教育 プログラムとの関連	本科目が主体とする学習・教育目標は「(B) 地球的視野に立った人間性の育成」である。		
	履修のアドバイス	多くの日本人が将来に不安を抱いている激動の日本社会、最後に頼りになるのは「私の頭脳」と「ピピとひらめく直感力」と「勇氣」でしょう。その中の一つぐらいは鍛えて下さい。		
基礎・ 関連科目 にかかわ る情報	基礎科目	産業社会と人間（1年）		
	関連科目	現代社会と法（4年）、産業と法律（5年）		

授業にかかわる情報		
授業の方法		課題を設定しその課題を解明していく中で、教科書も使いながら、必要となる基礎知識を習得しながら、結論に達していくという方法を可能な限り採用する。
授業計画	開講週	内容〔項目〕（指示事項）
	前期	<ul style="list-style-type: none"> 1 週 ・ ガイダンス。経済を勉強する意味 2 ～ 3 週 ・ 生産の担い手 4 ～ 6 週 ・ 株式会社 7 週 ・ 企業集団 8 週 ・ （前期中間試験）
		<ul style="list-style-type: none"> 9 ～ 1 1 週 ・ 前期中間試験の返却と解答説明 戦後の日本経済 1 2 ～ 1 3 週 ・ 国際通貨制度 1 4 ～ 1 5 週 ・ プラザ合意、バブル経済、金融危機（前期末試験）
	後期	<ul style="list-style-type: none"> 1 6 週 ・ 前期末試験の返却と解答説明 政治を勉強する意味 1 7 ～ 1 9 週 ・ 権力とは何か 2 0 週 ・ 民主主義 2 1 ～ 2 2 週 ・ 国民主権 2 3 週 ・ （後期中間試験）
		<ul style="list-style-type: none"> 2 4 ～ 2 5 週 ・ 後期中間試験の返却と解答説明 基本的人権 2 6 ～ 2 9 週 ・ 平和と安全保障 3 0 週 ・ 国際関係（後期末試験）
教科書、教材等		教科書：「政治・経済」（一橋出版：検定教科書） 参考書：「現代政治理論」（川崎修・杉田敦編，有斐閣） 「経済のしくみ100話」（岸本重陳，岩波ジュニア新書）
成績評価方法		定期試験4回 100点＝（前期中間100点＋前期末100点＋後期中間100点＋後期末100点）／4
受講上のアドバイス		自分を知りたいければ，自分以外のものを勉強しろ！ 自分ばかり見ている，自分のことはわからない。